

籠原駅炎上の大事故弾劾！

事故を引き起こしたJRの合理化を絶対許さない

周知のように3月15日早朝、籠原駅の送電線から火災が発生し、2日間にわたって高崎線がストップ、大混乱する大事故が発生しました。

私たちはこの事故の真相を明らかにし、この事故を招いたJRの外注化・非正規職化について徹底的に弾劾し、春闘ストライキとともに立ち上がることを訴えます。

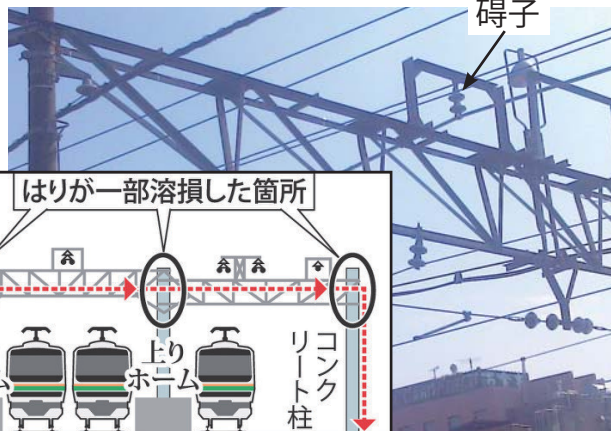
分割・民営化とメンテナンス合理化・外注化・非正規化がもたらした大惨事

私たち動労連帯は昨年12月組合情報139号（ネットに掲載）で、JR東日本で相次ぐ重大事故について、1対29対300の割合で重大事故が発生するというハイインリッヒの法則を用いて、JRと関連会社を通じて要員不足、習熟度不足が招いた結果であり、その根本原因は国鉄分割・民営化と外注化によって指揮命令系統が幾重にも分断され、無責任で重層的な差別、搾取の体制が作られた結果である。その結果として今『JRが危ない！』と指摘しました。

籠原構内では今年に入っても1月6日、3月3日、3月6日と3回もレール継ぎ目ボルトの破断が発生しています（写真下）。その都度緊急点検をした、と言

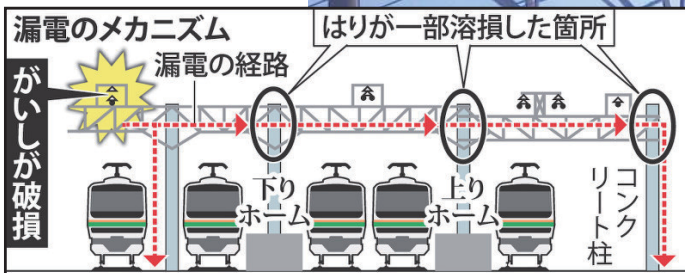
う事ですが後を絶ちません。

そして今回籠原駅南端の構内で重大な漏電火災事故が発生しました。電車を動かすためには通常き電線という直流1500Vが流れている電線から電気を取っています。き電線を碍子という絶縁体で鉄骨に吊っています。そのき電線から約250Vごとにき電分岐線（フィードイヤー）で電線を分岐して電車線「トクリ線（一般的に架線と言われ



き電線 1500Vを供給する高圧配線。太い。

ビーム 電柱を横につなぐ鉄骨の梁



毎日新聞の図

ルトが経年劣化で破断し、1500Vの電線が垂れ下がりビームと呼ばれる鉄骨の梁に接触してショートし、火災が発生し、梁、コンクリート電柱、ホーム屋根、各種電気ケーブル、信号ケーブルを通じて駅、運輸区、車両センター派出所11か所のリレーや制御装置、配電盤、放送装置、電話機等で、発煙、発火、溶損が発生しました。

「碍子」に電気を送り、その電車線からパンタグラフ（集電装置）で電車に電気を取り込みます。今回はその大元のき電線を吊っている碍子のボ

■碍子の寿命は切れていた
今回破断した碍子についてJRは1991年に設置し、2015年5月に点検した時には異常は無かった、寿命が20年〜25年だったと言っています。2016年で25年の寿命がすでに切れていたわけ（1968年製の碍子だったという情報もあります）

外注化反対！強制出向無効確認訴訟
4月27日（水）午前11時30分
東京地裁527号法廷

2017年度に交換するとい
うJRのでたらめな方針が今
回の事故を招いたのです。

しかも直径19ミリのボ
ルトが点検から10ヶ月で破
断したなどと言うことは明ら
かに、メンテナンス合理化に
よってもたらされた事故だと
言えます。この事故に対して
JRは同様な8万か所を緊急
点検すると発表しました。今
までどこの何を点検してきた
のでしょうか。

すさまじい破壊・あと数時間後だったら 多くの乗客が感電死していたかも・・・

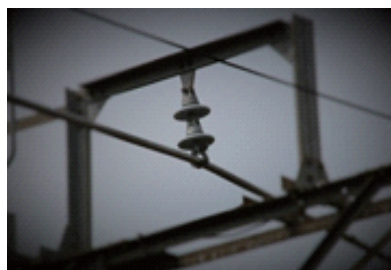
今回の漏電事故では、投稿
された動画でも分かるように
何カ所でも、長時間に渡って
強烈な火花が散り火災が発生
しています。消火には3時間



燃えてどろどろになった制御機器

を要したようです。

また最も損傷の激しい制御
機器の置かれた部屋はハロン
消火設備（ハロゲン化物消火
設備）と言う特殊なガスを用



正常な碍子↑



←寿命が切れたのにコストカットのため
に放置され壊れて落ちていた碍子。

いた消火設備になっており、
ガスが回収され、警告灯が消
灯しなければ消防職員でも現
場に立ち入れないという装置
も設置されていたようです。

長時間あれだけの火花が
散っているのにも関わらず変
電所の直流高速遮断器（緊
急自己遮断装置）が働いて
いませんでした。今回安全
装置が働かなかった理由は、
1500Vが抵抗の大きいコ
ンクリート電柱を伝わり各所
に伝わったため（！）、変電
所の設備としては、通常の電
力使用としか感知しなかった
ためだそうです。これが仮に
電柱を介さずに接地していれ
ば、異常過大な事故電流と認
めて遮断機が働いたものと考
えられます。今回コンクリー
ト電柱はコンクリートが溶
け、大きな穴まで開いていま
した（左の写真）。



また今回は、ホームの屋根、
ホーム、電柱などあらゆるこ
ろに電気が流れたものと考えら
れます。発生時間が初電前でま
だよかったです、あれが仮に
あと2時間3時間後だったらど
うなっていたのでしょうか？
多くの通勤通学の労働者、市民
学生が感電死亡する事態も考え
られたのです。



電話も燃えていた

そして、15、16日の2日
間だけでも上下519本が一
部区間を含め運休し、延べ
41万5000人に影響が出た
そうです。さらに、今回運転
再開見込み時間が何度も変更
されました。J

Rはその理由を
予想以上に機器
の損傷が激し
かったからと
言っています。

しかしそれは、
メンテナンス合
理化によって、
復旧作業に従事

する下請けの労働者が幾重に
も、幾つもの会社に分断され、
被害の状況把握と、実際の工
事における指揮命令系統が
複雑になりすぎていることが
指摘できます。

■闘わなければ殺される！

まさに、国鉄分割・民営化、
総外注化、総非正規化がもた
らした結果だと言えます。

今こそ「外注化・非正規職
撤廃」、「JRとその関連会社
の労働者を全てJRが直接雇
用しろ」と掲げた闘いが必要
になって来たのです。動労連
帯と共に闘いましょう。

